京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●二月中氣象概況（一）　（仁川觀測所報）

本月は氣壓一帶に低落し殊に咸北に著しく其配置は黄海に面する西岸に高くして日本海方面に低く其差約五粍に及へり風向は尚は殆然として北西を占め氣温は平均に於て中部及以南に微降し北部は却て微昇を呈し最高極は中旬末南東岸に於て十四度餘を示し最低極は中旬后城津に於て氷點下二十一度余に下降したり降水量は咸南江原に少なく慶南に多量なりしも尚は三十粍に達せし處なく蒸發量は依然南岸に最も多く殊に釜山に著大にして北進するに從ひて減少せり今之を既往（五ヶ年以下同）に比すれば氣壓は一般に過低にして即ち咸北に約四粍其他は多く二粍内外なりし氣温は稍過高を示し降水量は釜山に平壌　二十粍を最多なりしも中部及南部の内陸にては二十餘粍を最とし孰れも過少を呈したり蒸發量は龍岩浦及元山附近に減少し其他は皆多少の増加を見るに至れり尚ほ更に各項に就て其概況を叙すれば次の如し

○氣壓　平均氣壓は龍岩浦の七百六十七粍二より城津の七百六十二粍五の間にありて前月に比すれば南岸より漸次過少の度大にして極北東部に於て五粍餘に及べり

○氣温　平均氣温は釜山の二度三最も高く龍岩浦の氷點下六度七最も低くして前月に比すれば北部に微昇し中部及以南に微降し最高極は釜山に於ける拾四度一（十九日）最低極は城津に於て氷點下二十一度四（二十一日）に下降し之に亞ぐは龍岩浦に於ける同二十度五（同日）なり尚ほ本月中各地の最低極は過半七日に起れり而して較差の最大なりしは城津にして二十八度四なりき

○降水量　釜山に最も多くして二十七粍八之に次ぐは平壌城津にして共に二十粍余なりしが其他は十粍以下にありて元山の四粍一最も少なし前月に比すれば南岸及附近の内陸と北部にては元山の四十餘粍特に著しき過少なりしか其他は孰れも十粍以内の過多なりき

○蒸發量　最も多きは釜山に於ける百四粍にして之に次ぐは木浦の七十三粍九なり北部にては孰れも五十粍余にして最も少なきは龍岩浦の四十粍なり前月に比すれば北東部より各地共二十粍以下の過多を示したり（つゞく）

文苑

●劣等なる日本人　紅現庵

今朝の貴紙本欄に、さも忌生君の朝鮮に稀きものに朝鮮飴と憤死であるとわつた同感である、が僕は此れにモ一つ加へたいと思ふそれは眞面目なる商店員……使傭人……である何處の番頭乃至小僧支配人小使に至るまで棒先きを切るにあらざれば帳面を胡魔化さざるものは少ない樣である在勤三年にして遣ひ込みの三百と五百とを爲めものは意氣地なしと見做される樣である朝鮮人よりも此の点に於ては在韓日本人は確かに劣等であると思ふ、問ふ、我説非乎

●若き我が妻　蔵六

日曜なりと云へる感が深く頭に刻まれたりと見へ眼覺めたるに既に午也、朝の間に足すべき用事ありしに失敗たり呼びさまし呉れても可かりしものをと怨ずる我顏を眺しけに見たる若き我妻は叱られたりとや思ひけんオロ／＼と心付きませんで以後は注意まずにと打ち悄れたる態の心憎きまでに可憐しよしなき事云ひ出でたるものかなと悔めど詮なし串戯だよれ前の量見では休日なれはとて御自分に寐かして置いて呉れしなるべし其れを怨んでは勿体なし罰があたたな氣やな掛けそと慰むればニツコと笑みて白き齒を見す、於戯邪氣なき吾妻。

●瑞光餘影（十二）　魚遊痴史

▲翌日は滯在して緩りと平壤を遊覧せんと樂しみつゝ枕に就きしが突然命令は來りぬ「明朝一番列車にて開城に向ふべし」と嗚呼失望落膽、余はよく／＼美人の都には縁薄きものと見へたり

一念届いてヤレ嬉しやさ
思ふ矢先きに此の飛報
美女を膝枕の夢て居たら
憎くや覺ました小夜嵐

▲翌朝六時に起きて飯を総ひ旅宿を出たれば昨夜は夜中の事とて不明ざりしが此處は停車場より七八丁程を亘りたる本人の新市街にして道路は廣く家屋は何づれも新築にて却々立派なりし

門外見さへ立派だものを
城内が一しは偲ばれる

▲平壤の門口まで來て一寸覗いたばかり城内をも見ず其儘逆戻りする殘念さへいじやうの心懸が惡いからさ洒落て見ても始らずカなく／＼停車場に向ふ

前へ一と足進行めど三足
木槵に引かるゝ後ろ髪

俳句

焼野十句　千春

渡しまで見通しになる焼野かな
草の芽のぼつちり青き焼野跡
あわたゞし焼立る野を走る雉
戀塚に夕風の添ふ焼野かな
切株に二日いぶりぬ焼野原
道切つて鼬の走る焼野かな
野を焼くや夢の終りの小町塚
雪に來て轉しも此所よ焼野原
野狐の穴もあらわに焼かれたり
雉子一羽土筆まばらの焼野かな

昨紙所載「青游苔」に讀人を脱したるが右は多田千春子の吟詠たりし也、謹で粗漏を大方に謝す

佐倉宗吾（卅二）　眞龍齋貞水講演

甚「御家に瑕瑾の付かざるやう、神妙に引取れ、以來は決して百姓共に不都合のないやう致さうぞ、三浦を以て木内宗五郎に申出でたらば、大人望ある宗五郎でございますから、此者の口にて百姓共を制しますれば、一同の百姓は、鬼や角う申す事はござるまいと存じます、此儀早速御承知の上、三浦を喚んで仰せ懸けられますやう、如何でございませう」玄「斯りや長島の云ふ所は道理、吾々感心いたした、それでは爾う云ふ事に致さう」となりまして、早速三浦甚藏の許へ、迎への人が參りました、甚藏は既う隱居して居りますが、若い時分から、五十四五歳まで、佐倉領六萬石の郡方を勤めた程であるから、なか／＼此人は百姓を憐れんだ、仁徳のある人でございます　○「御爺いさん　甚「オウ何事だ　○「只今御城中の御城代樣の御屋敷から、御人が參りましたよ、何事か急の御用があるから出ろつて　甚「ム、然うか、先刻から此隱居所で聞いてりや、將門山の方へ當つて、ボーン／＼と鐘を撞立て、何となく御領分が殺氣だつて居るから、困つた事が出來したと思つて居たが、ア、非道の御役人樣が、百姓を窘めなすつて、騒動が持上つたか、乾度その始末が着かないで、此甚藏に出ろと仰つしやるのだらう、是非に及ばぬ、心は濟まぬけれども、長い物には捲かれろ……それぢや直ぐに出るからと、御使者を先きへ歸してくんなさい、困つた事が出來た……一体年齢を老つて役に立たぬからと跳ね付けてやらうか……イヤ、そんな事をしても、后の始末が着かぬけりや、御殿樣へ對して申譯がない、エーツ、斯りや百姓衆には氣の毒だが、一つ出掛けにや成るまいか知らぬ」拒絶る事は知つて居りますけれども、兎に角御先代樣の御恩を蒙つて居る身の上だから、據ろなく是から支度をして出掛け、御城代の屋敷へ來ると、一同が揃つて居りまして　○「イヤ、斯りや三浦御苦勞である」甚「エー、是は皆樣御機嫌よろしうございまして、只今は何事か御用があるゝ仰せ聞げられて、罷り出ましてございます、御用の趣は何事でございませうか」玄「イヤ、誠に甚藏、今日は老人の其身を此處へ招しだは、外でも無い、貴公には存ずるなれど、も百姓共が、今日、何事か心得違ひを致して將門山へ登り、早鐘を撞いて、二百六十有餘個村の者がガヤ／＼騒ぎ立て、如何とも吾々これを鎭める術がない、希か其方、是より何とか工夫を致して鎭めてはくれまいか、其方は豫て木内宗五郎とも、懇意の間柄であるから、彼とも談合致したならば又鎭められぬ事も無からうと存ずるが、如何か」腹の内では三浦甚藏が「人を馬鹿にして、得て勝手な事ばかり申してゐる、フ、フーン、自分達の力に及ばぬ事が出來れば此甚藏や宗五郎どんを引出して、事をさせやうと云ふのだ、情けない事だ」と思ひ　甚「是は／＼、又この程は、百姓共心得違ひとは申ながら、日頃神妙に働いて居りました者が、此の如き騒動を起すと云ふは、一体どう云ふ理由でございませうか　玄「イヤ實は川喜多織兵衛が、不都合にも、桶枡の寸延のものを拵ねたるため、吾々共にまで迷惑を懸けるやうな事が出來いたしたのぢや、第一川喜多と謂ふ奴は、不埒な奴である　甚「恐れながら桶枡と申しまするは、日本六十余州の内、何れに於ても、御納米に付いては用ゐざるものでございます、私が申し上げる迄の事はございませぬが、既に徳川樣の此掟には、金板角枡を以て、御採上げに相成るとありまする、然る所を御當家に限り、桶枡を御用ゐになるとは、甚だ以て私は御不都合かと、存じ奉ります、それは川喜多より致して、左樣なる事を計ひますれば、無論川喜多は、其分にも御捨措きはございますまいが、併ながら彼百姓が、川喜多を怨まぬで、此城中へ押寄せる所を見ますれば、又御城中にも何事か御不都合があるのでございますまいか。」

京城新報

輸入米増税案と伊藤公

一昨十六日發の東電に依れば輸入米増税問題には政友會は賛成にて又新會は反對に決し伊藤公は心中反對なるも政友會內部の紛擾を恐れて看過せりとあり、餓虎の如き政友會が輸入米商の散布せる黄白の爲に政治的良心を賣り國家の利害を顧みず、此案に賛成するは強ち不思議とも思はれざれども今尚ほ統監の重職を帯べる廉潔なる伊藤公にして唯政友會內部の紛擾を恐るゝが爲に、餓虎の如き政友會の横暴を抑制することなく、之を看過し身は漂然として關西に遊樂するが如きは至誠どして口癖の如くに常唱する伊藤公として有り得べからざる事なり、然れども亦一方より考れば公の優柔不斷なる或は政友會の紛擾を恐れたるやも知る可らず、果して然りとすれば統監たる公は其職責を盡さゞるのみならず、其心中に於て此案に反對しながら之を發表せず多數黨の横暴に委し去るに於ては公に政治的良心ありや否を疑はざるを得ず、政友會にして公の驥尾に隨せずんば止ひを得ざるも、政友會はもと之れ公の組織したるものにして、今や表面政友會に關係なしと雖も、其實今尚は公は政友會の首領も同一なり、故に公の政策には餓虎の如き政友會も常に賛同しつゝあるにあらずや、民長官撰令の如き不都合なる問題にも賛成しつゝあるに非ずや、斯の如き間柄なるを以て公にして勵聲一番政友會の反省を促すに於ては如何に黄白に醉ひたる政友會と雖も勢ひ聽せざる能はざるべし斯迄になして尚ほ公の説に聽かざるに於ては其非は公に歸せずして全く餓虎黨たり、[illegible]等の紛擾咆哮を怖れて默過するに至りては是畢竟公の政治的生命は盡きたるものなり、帝國の韓國經營は獨り農業漁業等をなすのにみて發達するものにあらず、其農産物及水産物を盛に輸出せずんば其經營は進歩せざる也、今回の増税問題にして可決せられ韓國米の輸出杜絶するとせば如何なる結果を生ずべき乎、若し日韓貿易に於て米穀の輸出杜絶せば他に何等見るべき貿易品あるや、要するに此増税問題は日韓貿易を全然遮斷する最も惡劣なる問題なり、此案の可決せられたる曉に於て日韓の經濟的關係に如何なる悪影響の來るべきかは、如何なる痴漢と雖も解するに苦しまず、日韓關係上斯る大問題を等閑に附して顧みざる伊藤統監の心事は眞に解す可らず、假令公にして統監の印綬を解くの意なりとするも現職に在る以上は日韓關係に於ける重要問題には極力盡瘁せざる可らず、菅際公にして斯る無責任なる行動をなすならば速に現職を去るべきなり

斯る不親切にして冷淡なる統監の任にする以上は帝國の不利益のみならず、在留邦人は實に心細く感じ安んじて韓國經營に從事する能はざるなり、玆に於て余輩は益々統監の更任せざる可らざるを感ずるに至れり、嗚呼統監の更任は目下の最大急務なりと知らずや

東京電報

▲個人損害延期

日露戰役韓國個人損害委員會にては倉知政府委員は韓國は未だ調査せざるも船舶の損害は三百万圓滿洲方面は約千七百萬圓なりと述べ尚政府は法律案を起草して提出する筈なれば夫れ迄延期されたしと述べ政府の意を容れ延期することゝなれり（十六日發）

釜山電報

▲閔特使一行の出發

日本より還りたる閔特使の一行は今朝京城に向つゝ出發せり（十七日發）

雜報

●皇室債務と上訴

皇室財務に關する調査は度支部臨時財産整理局にて審査會を開き其の決定に依り支拂の如何を定ひることとなるが其筋にては此の決定に對して不服なる者は控訴院へ上訴することを許す筈にて明日の官報を以て之れが規定を發表する筈なりと云ふ

●皇室債務と外人

韓國皇室に對する各種の債務は目下財産整理局にて調査中なるが此の中外國人に關係する分左の如し

△清國人 五件 貸金物品代及工事費 金三十六万三千〇三十一圓
△英國人 一件 物品代 金二千三百三十八圓八十四錢
△日本人 二件 貸金 金三万九百三十七圓
△佛國人 一件 契約不履行に對する損害倍償 金一萬五千三百六十五圓

以上の如く外國人に關係する分は僅かに四口にして債務總高二百六十万圓より見れば一少部分なれども貸金と稱する內には其の當時の大官連が皇室の名義を濫用して借入れたるもの多しと云へり

●地方官の増員説

曩に報道したる地方官増員の件は愈々今十七日の官報にて發表せられたるが今其の規定を見るに從來は主事七十八人なりしを百十七人に警部六十二人なりしを百七十七人に飜譯官は雇なりしを判任官として飜譯官補と稱し六十八人を各道に置くことゝ也たり

●模範林の新設

農商工部が本年度に於て新たに經營する模範林は左の通りにして何れも本月末或は來月早々着手する筈なりと云ふ

京城（鞍峴山、仁旺山） 百二十町歩
開城 五十町歩
大邱 五十町歩
平壤 五十町歩
合計 二百七十町歩

因みに加藤清正の手づから植へたりと傳へられたる鞍峴山（西大門外）頂の一本杉は經る霜雪に半ば枯れなんとせしを此の程何者の惡戲にや根本に火を放ちて燒き倒されたりと云ふ

●部分林の嚆矢

部分林規則發布以來此れが許可を請願せる者多數に上れる事は既報の如くなるが去る十二日付を以て左の部分林許可されたり

絶影島西部 七十町歩 請願者 釜山居留民團
林樹數 松二十万本 櫟三萬九千本 赤楊二萬千本
收益分收部分 一官九民
存續期間 百年
伐期 松、赤楊 五十年 櫟 十二年
伐採回數 松、赤楊 二回 櫟 八回

因みに絶影島には釜山なる迫間房太郎氏一昨年（部分林規則發布以前）農商工部の許可を得て松櫟百萬本の殖林をなしたるが成績良好なりと云ふ

●殖林苗木の購入

農商工部が殖林奬勵のため無料配付に要する苗木櫟外各種四十萬本の指名入札は總價額二千四百餘圓にて橋詰博外六名に落札し來月五日限り納入する事となりたるが其の無料配付請願は頗る多數に上り居るを以て其の配付數は按分を以て此れを定むるか或は請願者の資格を審査して配付すべきかに就き目下詮議中なりと云ふ

●林業事務所の増設

本年新設さるゝ木浦及び鏡城の兩林業事務所は先づ苗圃の經營をなす事となせり又京城林業事務所は從來苗圃を有せざりしが本年度より此れを開設することゝなせりと

●名所古跡の調査

內部に於ては豫ねてより韓全國の名所古蹟に就て調査中なりしが此頃略ぼ脱稿したる由にて頗ぶる趣味あるものなりと

●獨逸借款打破説

本月二日伯林に於て英佛獨三國資本家の會合あり今後支那に於て鐵道に對し外資募集の擧あらば聯合して之に應ず可く其條件は廣東九龍の借款契約をミニマム（最低）となし其以下にては應募せざることゝするの協議あり略ぼ協定を經たるに今回粤漢鐵道借款に當り突然獨逸銀行が支那に最も有利なる津浦鐵道に準じ手取りは同額なるも利息を低減するの約策にて應ぜんとせしは前の協議會を無視せるものと[illegible]居る英人あり本日倫敦に於て開催すべき前記三ヶ國資本家の第二回會議には獨華銀行代表者も出席すれば議論ある可く結局は三國聯合出資となる可しとの論ありしと

●露國義勇艦隊と漁業

露國義勇艦隊は從來海軍の管理に屬する半官半民的のものなりしに本年度より極東航路の大發展と共に之が管理を商工務省に移さんとて目下交渉中の由なるが多分後者の管理に屬するに至るべしと尚北海及び沿海州に於ける對日本露國漁業者保護の方法として本月末よりサガレン、勘察加、オコック海方面に對する各漁業地に向ひ從來の年七八回の航海、附近三十箇所の寄港を擴張して年十航海五十箇所寄港とし大に自國漁業者の利便を計るべく該航海は本月末より開始さるべしと

●外報一束

▲雲南鐵道費可決 佛國下院は雲南鐵道建設費として五千三百萬法の公債發行の議案を通過したり

▲英暹關係増進 英領馬來聯邦は盤谷府より南の方新馬來境界迄鐵道を敷設する爲め四百萬磅を暹羅に供給するに決せり

▲露國西藏關係 露國皇帝に謁見せし達頼喇嘛の使節はブリヤード種族出身なるドーアマンカンブならん彼は從來達頼喇嘛と露國の消息を通ずる仲介者たりしと消息通は語れり

▲石油會社無罪 市俄古來電に曰く一昨年八月スタンダード石油會社を二千九百萬弗の罰金に處したる判決再審の結果スタンダード會社無罪と決せり

●東洋協會學校學則改正

東洋協會學校京城分校の生徒は從來東京本校の二年生を入學せしむる規定なりしが今回全科の卒業生を入るゝことに改正したる由にて之れに關係せる人々は來る十九日午後六時より京城ホテルに集合し學科改正等に對して協議する筈なりと云ふ

●巡査志願と有爲の人物

近頃內部が募集したる巡査志願者中には陸軍歩兵少尉勳五等の者あり又は明法學士の肩書を有する者等隨分有爲の人物ありと云ふ

●外米輸入趨勢

目下議會の問題となれる米穀輸入税引上案に關し我れに於ける米穀輸入の趨勢を見るに明治二十年輸入額僅に二萬八千八十七石に過ぎざりしもの二十三年には一躍百八十三萬八千六百三十七石に激增し爾來年の豐凶に依りて多少の高低ありしも大抵は輸入額を增加し三十六年には四百八十六萬四千九百六十二石翌年三十七年には五百八十九万二千七百十四石の多額を示せり然るに明治三十八年七月一日より一石に對し六十四錢一厘の輸入税を課せらるゝに至り趨勢一變同年の輸入額は前半期に於て見越輸入の行はれたるに拘らず四百六十三萬八千三百六十五石に減じ次で三十九年には急轉して二百四十四萬四百三十四石に激減し昨四十一年に至りては更に減退して九十四万千四百十七石を示し本年は今一層其の額を減ずべき趨勢にあり然るに內國米の產額は耕地整理其の他の開墾に依る反別の擴大と耕作方法の進步發達に依り漸く其の產額を增加しつゝあれば將來甚だしき天災の生ぜざる限り此の趨勢に變化を來す如き事なしと

●李首相の水原行

閔特使歸城に付李首相及び宮內官數名は出迎のため昨日午後四時廿八分の列車にて水原に赴けり

●戸叶書記長の電報

外米輸入税引上案に對し目下運動中の戸叶京商書記長より亦左記の通り電報商業會議所に着せりと

外米輸入税引上案今日議會に登りたるも紛爭の結果決議に至らず（十六日午後着）

●民會開催

十七日京城民會は午後四時より開き一般豫算に付議了すべき由

●韓海の海苔業

韓國南海岸突山、莞島、珍島、智島、各郡に附屬する群島に於ける海苔業は今や盛期に入りたるが此地方に產する海苔は品質大に良好なるも韓人の事とて製法粗雜にして細斷せざる爲め或部分は厚く或部分は漉き切れあり且つ稚介岩石の細片附着し或は海藻、青海苔を混じ色澤も亦不良なれども其香味は外國の粗惡とは反對にして若し製法に留意し改良を施さば良好の逸品を作り出すを得べく大に有利有望の事業なりと

●商船の北韓新航路

從來商船會社所屬船の北韓航路に從事せるは大禮、汕頭丸の二隻なりしが過般汕頭丸の航路を變更せし爲め其後繼として咸興丸を同航路に從事せしむる事としたるに就き十五日釜山の重立つ官民新聞記者等數十名を同船に招待し晩餐會を催したり而して同船は午後九時釜山を出發し北韓各港に廻航せりと云ふ

●鎭南郡の改稱

既報鎭南浦と紛はしき慶南道鎭南郡を龍南郡と改稱の件本勅令出でたりと

●坡州學生の斷髮

京畿道坡州郡邑內光興學校生徒三十五名は此の程全員斷髮せり右は今回の行幸の反響たるべきも一には同校長一進會員金奎昌が生徒に制帽を給與したるに依ると云ふ

●請負者資格の變更

建築所土木建築工事請負及同工事用物品供給に對して同所長が特に指定したる競爭入札に加入せる者は從來の外尚左の資格を要することゝなりたり

第一條 資産に關する資格

一、各人に在りては入札金額に應じ左に記載する納税年額を二ヶ年以來引續き納付する者

入札金額一千圓以上五千圓未滿 金三十圓以上、入札金額五千圓以上一萬圓未滿 金八十圓以上、入札金額一萬圓以上五万圓未滿 金百圓以上、入札金額五萬圓以上十万圓未滿 金百二十圓以上、入札金額十萬圓以上 金百五十圓以上

二、合名會社に在りては其の社員の納税額を合し又合資會社にありては其の業務擔當社員の納税額を併し前項の例に依り納税年額を二ヶ年以來引續き納付せる者

三、株式會社に在りては入札金額に應じ左に記載したる資本金の納入を畢りたる者

入札金額一千圓以上五萬圓未滿 金五萬圓以上 入札金額五萬圓以上十萬圓未滿 金十万圓以上、入札金額十五萬圓以上

前項第一號第二號の納税額は外國人に在りては其の本國又は居留民團或ひは各國居留地會に納付したる各種の税金を合算す

第二條 營業に關する資格は左の如し

既往三ヶ年間に在りて一件に對し入札金額の三分の一以上に相當する工事請負契約を完全に履行したる者

第三條 建築所長が必要と認めたる時は工事或ひは物品の種類に依り本令の一部を適用することを得

第四條 本令は頒布の日より施行す

●漢城病院の改革說

京城民團が漢城病院に對する意向は隨分激烈なるものありて中には廢止論者もありたることとなるが議決の結果同病院は三ヶ月內に大改革を爲すかと其成案は熊谷民長にて起草すべき筈なるが或る有志者は該病院を一と手に請負はんとして既に奔走中の者もあると云ふ

●民長の徴兵檢查訓示

仁川民長富田耕司氏は來る廿日午前十時より仁川壯丁者百四十六名を招き四月一日より五日間龍山歩兵第十三聯隊第二大隊にて實行せらるべき徴兵檢査に關する訓示及び諸種の注意をなす筈なり

●汚物掃除の請負

仁川民團の汚物掃除及び市中撒水の三ヶ年間請負入札は再昨日同民團にて行はれたるが入札者十七名の中仁川增田彌吉氏五千七百八十六圓にて落札したりと

●蒸滊喞筒の置場

仁川民團にて新に購入せる蒸滊喞筒の置場は理事廳構內に決定したるが右建設費は一昨日入札の結果一千二百八十圓にて仁川岡田組事泉川清次郎に落札したり

●防火用貯水池工事

仁川防火用に供せらるべき貯水池は愈々理事廳構內仲町三丁目三ッ角地、宮町派出所附近に設置せらるゝことに決したるが右は數日前長谷川庄次郎が一箇所建設費五百十九圓二十錢に請負ひ不日工事に着手すべしと云へば來月中には多分完成を告ぐべしと因に同貯水池は全部石造にして廣さは三間に二間深さは八間なりと

●本町憲兵分遣所落成

京城本町一丁目に新築中なりし憲兵分遣所は此程落成せるを以て本町分遣所は不日移轉すべしと

●樋口氏に感狀を送る

仁川民團より仁川開港以來民團世話役となし以來居留地のため盡力せる同地元老樋口平吾氏に對し一昨日時計鎖及びメタルに感謝狀を添へて送呈したり

●城控訴院長水原行

城京城控訴院長は十七日午前八時五十分南大門發水原に赴く

●松村憲兵中尉

憲兵隊松村中尉は忠清南道地方視察の爲め十八日出發せり

●滿更憲兵中尉

憲兵隊滿更中尉は十九日水原地方視察の爲め出發せり

●本願寺の彼岸會

今日より來る廿四日まで彼岸會なるが南山本願寺にては毎日午前七時午後二時、同七時半より說教ある由

●彼岸會と說教

龍山及び當地長谷川町西本願寺にては今十八日晩より來る二十四日晩まで彼岸會を執行し又每夜八時よりは說教を爲す筈なりと云ふ

▲辭令

三月十五日附左の辭令ありたり

農商工部技師兼臨時財源調査局技師 塚本道遠
任臨時財源調查局技師敍奏任官二等

公人私人

▲木田伊之助氏（十二師團參謀長）は十六日夜入京天眞樓へ
▲南爲吾氏（岡山縣事務官補）同上山本旅館
▲近藤寛彝氏（岡山縣韓國農事獎勵會幹事）十六日入京山本旅館
▲岸歌治氏（同上農商技師）同上
▲小出肥氏（石川島造船所技師）同上巴城館
▲若松兎三郎氏（元山理事官）同上巴城館

●近事片々

▲京城日報主催の日本觀光團には李完用君頻りに斡旋して人物の選任をなすと云ふ
▲斯くては官撰觀光團ずりとは最も適評
▲東拓記者招宴會に於て大岡力君の觀光團計畫は御自身大分御得意の樣子に見へ大岡力君亦努めたりと云ふべし御苦勞千万
▲而して大岡社長御自身觀光團を引率して東上せらるべしとは亦得意に語らる所か
▲原田主筆は居殘りなす編輯局に籠る由とは亦原田君の自ら慰撫る所は中々〻面黑し
▲統監政治質問に對する政府の答辯如何によりては上奏案を提出せんとの說有りと
▲統監政治も隨分問題となり來れり之で幾分の刷新は必ず行はれ來らんとは世評也
▲帝國々民も何時々々迄も伊公の專斷政策に眩惑せず今や事實は悉く知れ渡りけり
▲統監更任も議會閉會後には必ず實行せらるべしとの事なるが後任は何人なりや
▲韓國の事も追々議會問題とする事多し之に就けても政友會の横暴を盡す必要あり
▲如何なる國家の利害問題でも正義でも彼等は自己の利害より之を蹂躪して顧みず
▲多數黨の横暴を制するには其頭目を微塵に碎くにあり伊公西園寺侯は其頭目たり
▲伊藤公も四國邊で神戸より拉し去りたる阿娘の膝に眠りて夢暖かならん世は㒒々
▲最近聞く所に依れば伊公は今尚は韓國の事を斷念せず客に向て乃公々々を振廻す
▲斯くては統監政治の刷新に就て甚だ心細し最早宜加減に樂隱居するが[illegible]
▲山縣公は近頃鬼角健康勝れず靜養に餘念なし全く政治上には關係せずとは眞實乎
▲果して然らば明哲身を保つの法を知れりと云ふべき也伊公も山公に傚ふが肝要也
▲井上角五郎と云ふ男は實に先天的吏黨なり今や大岡を去て政友會に突入し來れり
▲蟹は横に這ふ實に然り彼は白晝堂々直に行かず利のある橫道に常に潜まんとす

都政案と統監法
東京電報
●大邱の天然痘 大邱警察署より內部への報告によれば該地方高靈郡に於ては……たるも懇々說諭を加へて隔離せしめたるに其後は一名の新患者を生じたる外傳染の恐……
●天氣豫報（自十七日午後六時至十八日午後六時） 北西の風晴 …… 溫度 ……（攝氏三九、二）
●酒井政平の破綻

▲都政案と銃獵法 …確定せり(十七日午後發)

都政法 部への報告によれば該地方高靈郡に於ては…健康者と同居するより隔離所に入れんとしたるに疑懼の念を懐きて一時は紛擾を釀し 其後は一名の新患者を生じたる外…れなしとのことなり

本日午前六時韓國氣象概況 高氣壓は滿洲に擴張し北の風吹き西岸は曇天其他は晴天なり

十六日 最高温度…

▲…の休載 記事輻輳に付き本日休載

雜報

●義和宮の落胤(一)

▲日本見學は美人見學 ▲赤阪藝妓を胎ませる

東京赤阪第一流の藝妓屋に林家と云ふがある、此家の女將たりし(テツ)と云ふは赤阪田町の菓子屋の娘であつたが容貌の美しさと少々藝の覺へあるので藝妓となり、さる處を置く様なし遂に今日の如く大看板を揭ぐるに至つた、茲に同家の看板藝妓に稍々花の色香は萎みかゝつては居るが満更でないのがある、然る處今より五六年前義和宮が日本見學とあつて玄海の波濤を越へて馬關に着し、先づ第一着に同地の藝妓の味を嘗められたが抑も序開き、日本の美人を見て大の恐悦で京都、名古屋、静岡と各地の花を手折りつゝ東京に着し東都の花も又一段と興のある事であらうと、日本見學は忽ち美人見學となり、側近く召されし一粒選りは即ち林家のリン子にして、一寸鮮かなる鉄の手振りに、義和宮は唯もう紅緑藝妓の此美しさに簇かる雲の櫻とも、牡丹の並び咲けるとも嬉はしたらん、恍惚となつて顔の筋も緩まれしが、其處を色々と取持する者あつて白羽の矢は此のリン子に立つた、面目身に余つたリン子は降る亞米利加に袖はぬらさじと歌つて自害して果つる様な野暮天ではない、望なく義和宮の望みは協つた、夫れからと云ふ者は義和宮は、モウ有頂天で、リン子〳〵とのれ夢懸り嫌性に上つたリン子は嬉しく思つたか思はぬか知らぬが兎に角リン子は赤阪屈指の藝妓であればリン子に何事も御存じ無き義和宮はリン子一人の手活の花も同然、まさか他に男があらうとは夢にだに思はれた事はなかつた、けれどもリン子には水商賣である良い客でさへあれば何日何時でも辞退はせぬ、こゝに又岩倉公爵の令息某とて當時慶科大學生たりし若様がリン子の許へキッと通ひ來る、リン子は外國の宮様と我國の公達を兩手に綾なし居る内何時しか酢いもの欲しい懐胎となつた、斯うなると胎に宿つた胤は義和宮のものとも公達のものともつかぬ、けれども何方に頼んでも物になる譯だ、其處で女將のテツは直ぐに義和宮の御胤であると外務省に告げた、時の政務局長山座圓次郎氏は仇れろそかの事ではない人妻の出來る國に時めき給ふ宮殿下の御胤とあればリン子を大切に取扱へと諭した(未完)

●色男四人の置去

▲一山支店房江の怪腕

仁川敷島遊廓一山支店の房次と言へば廓內切つての美人なりしが先月下旬目出度く泥足を洗つて歸朝したり今此房江が最後に揮ひし怪腕に美事捨玉に揭げられたる被害者の一人なる某の失敗談を聞くに近頃面白き節あれば茲に記して自稱色男共の參考に資せん、さて房江と云へば同廓內で一と言はれて二と下らぬ美人、殊に其凄腕に至つては稀に見る處にして毎月の賣高も常に第一位を占め居たり、然るに此房江には異夫として彼れが表面赤心を盡し居たる四名の色男あり即ち鐵道管理局の官吏某、同廓內吾妻樓の主人、仁川本町○屋呉服店の主人及び今一人は平壤の某にして彼れは最早年期近づきたれば此四名等で一仕事と先づ呉服屋の主人に向ひ妾も彭數月にて年期充つれば晴れて貴公と世帶も持ちたければ世帶道具や衣類万端調達費にとて旨く切り込み金百圓をせしめ鐵道屋にも同一手段にて百圓を平壤の男からも同じく二百圓を、吾妻の主人には流石に商賣柄余り素人欺ましも云へず一寸日本へ行て來ますほどに五十圓だけと甘々とせしめ、さて一山へは永年首尾能く働きたればとて前借百五十圓を百圓に負けて貰つて目出度く廢業し、直ぐ其足で一番好きな平壤の人の處に至つて三日間程滯在し世帶道具や何や彼や準備を爲さしめた儘出奔して京城に來り鐵道屋さんを呼び付けて之れも同じく世帶道具の準備を命じ置きたる儘一所に廢業したる、山支店の一二三及び淺岡支店の一二三と共に擧てセシメ差引勘定三百五十圓のた金を懐にし鄉里三重縣を指して出立したるが彼れ等は既くに二世を契りし某と云へる中尉が姫路師團に在勤中なれば今頃は中尉殿の側で遙に朝鮮の空を眺め長い舌をペロリと出して笑つて居るならんと、此被害者の一人語りつゝもエー忌々しいとサモ口惜しそうに見へたり尚は世帶道具の準備を命せられたる馬鹿者の中鐵道屋さんは房江の寫眞を油繪に彩らし床間に飾りて毎朝繪像に向ひ「れ前の姿を繪に畫かし見れば見る程美しい」抔と十種香模擬に禮拜しつゝ居たりと云ふが此記事を見て繪像を破毀するの勇氣ありや否や

●時事俳評 ちはる

△統監の渡韓行き●●●●
温泉あたりの頭痛になやむ春日かな

△夜行列車の復舊●●●●
艀船に渡し客あり花臨時

△政友會の盲從●●●●
骨抜きのぞもうのたくる柳かな

△宮相と統監の斡旋●●●●
同病のエセ乞食あり彼岸時

△平民文庫の論戰●●●●
蛤やさては雀の化身かも

△十八娘の放火(川柳)●●●●
やかれたる恨み放火で燒き返へし

●惡事務員の拘引

▲酌婦に逆せ數々の犯罪

神戸生れの菅原政雄(二十)と云へるは嚢に當地小川其他一二の法律事務所に事務員として勤務し居たるが性來放蕩者にて薬行修まらず無智の訴訟人等を詐きて宜からぬ事を爲しつゝありしが現に當地永樂町雜貨商山本某より約束手形にて本田執達吏須永理事囑兩人を裏書とし額面六十圓の

約束手形を偽造して甘々六十圓を引出したるも期限に至り支拂ざるより山本は遂に本田須永の兩氏に面會して直々催促せしに兩氏は**寢耳に水**の大に驚き其偽造たる事を告しかば茲に山本は委細告訴に及びたれば數日前彼は京城理事廳に拘引され目下審理中なるが彼は此外本町五丁目梶原瑞穗商店裏書にて四百圓の手形偽造し將に行使せんと爲し居たり尚は右の外本田、須永兩氏の名義を利用して百圓の約手をも行使し其他多數の犯罪行爲ありとか今彼れは此多額の金を如何に費消したるかと云ふに彼は疾くより本町一丁目**蓬萊亭の酌婦**れ何に現を抜かし逮捕數日前**本妻を離縁**しれ何を根引して我家に引入れ右梶原商店裏書の偽造手形を行使して四百圓をセシメなば滿州邊へ**高飛**びせん準備中なりしと然るに憐れなるは本妻某にして一度び離縁されながらも前夫の拘引さるゝを見て近所近邊泣き歩き居たりとはさもある可き事共なり

●仁川の天然痘

仁川の天然痘は初發以來既に日本人のみにて二十八名の多きに達し尚益々猖獗を極むる模樣なるを以て同民團にては數日前より仁川病院及び市中開業醫に痘苗を配付し求めに應じ無料種痘をなすことにしたりと因に同患者二十八名は全部未種者及び種痘後五年を經過したるものゝみなりと云へば此際未痘者は種痘を受くべしとなり

●鼻柱を撲つ

當地南大門通二丁目の丸魚市場帳場末次右三郎(二十)は一昨日午後二時頃暇町漢城病院裏手道路に於て伊藤組車夫林辰五郎(三九)が突當りたりとて下駄を以て面部を殴打し鼻口より出血せしかば辰五郎も承知せず双方立廻りを演じ居る處へ警官出張し右三郎より治療料一圓を出して事濟みとなれり

●酒場で金の紛失

當地櫻井町金貸業西川健次郎及び南大門外一二三亭主人森谷宗十郎の兩名は昨日午前三時頃長谷川町二丁目飲食店松木駒太郎方にて主人と共に午前六時頃迄飲酒したるが其場に於て健次郎所持の金三十圓紛失せしにぞ此旨曾洞派出所に訴出しかば警官出張取調べしに健次郎は飲代參圓の仕拂を爲す際財布を出した儘外出もせず且つ餘人も入り來らざれば頗る怪訝に堪へずとの事に目下尚捜査中

●料理屋の食付犬

仁川宮町三丁目石岡利三郎長男次雄(九つ)と云ふが自宅前にて遊び居たる際八阪樓の飼犬に咬み付かれ右の耳に負傷したれば直に高木病院にて治療を受け一方飼犬は厳重に繫留して矢野獸醫の診斷を受けたる筈なるが狂犬なりや否やは未だ判明せずと

●小夜嵐(敷島近事)

京城 魚遊痴史

▲明石の自殺●●
泣いて明石の浮世を浦み沈み苦海の泡沫と消へ

▲日出の拘留●●
今は日の出も見られぬ體愚痴を夕暮れ檻倉の中

▲雛鶴の入院●●
夜毎縮たる羽翼が損傷み哀はれ雛鶴巣に籠もる

▲奴の大敗策●●
風に乘られアレやつこ凧逆せ上がつて落された

●仁川の猩紅熱

仁川花町二丁目長迫カヨ(四十)は十日程以前より猩紅熱に罹りながら届出をなさず隠蔽し居たるが一昨日發見せられ直に避病院に送らる

とらめがね

▽情夫と駈落し已れを捨てたる母親を訪ねて遙々東京に出でしは群馬縣北甘樂郡下仁田町鈴木平吉と云へる十歳の父亡き少年

▽出入の若者と共謀し金時計金指環杯を騙取せし嫌疑を受け醜聞を流せしは東京々橋區相住町に住む田中陸軍一等軍醫正の妻

▽女は四十五男は二十二で鐵道情死を遂げたは栃木縣安蘇郡田沼町船田千八と同町小松原久平の妻た富とて夫も子もある女也

▽伯林の冬園に於て貨物の大砲を額に載せて中心を取り悠々濶歩する力持ならぬ額持あり是れこそ世界第一の大力男ならんか

▽慶尚北道龍安郡北面石洞里韓人趙一先方の飼犬は眠れる幼兒の睾丸及び陰莖を食ひ切りたるが幼兒は今尚は生存し居れりと

●韓語獨習(四)

日本語	韓語
火、をたけ	プル、テーヨラ
水、を汲んで、來い	ムル、トーオナラ
火、を持て、來い	プル、カーチヨ、オナラ
此村の、飲水は、如何であるか	イチヨーチ、モングナン、ムールン、ウツトニヤ
大抵、よろしいです	タイカン、チヨツスムニタ

●取消

拜啓本月十七日發行貴紙第五十九號第三頁「十八娘の放火犯」と題せる記事中「妻女の客氣」なる一項は全く事實無根に付御取消被成下度此段申入候也明治四十二年三月十七日京城旭町三丁目廿四番戸山田直二郎京城新報社御中

◀平民文庫▶

▲春風駘蕩の好季となりぬ一團体を作つて温陽邊りへ遠足を試みては如何(運動好)▲看護婦會の風紀矯正に關する記事投書せしに御掲載無きは如何(愛讀生)▲記事編輯に付き一兩日後れます(係)▲食度生編輯局高等小僧兩君健在なりや兄弟の消息近紙に見えぬが最早講和談判でも締結せしが又氣根盡きたるか時た食度生君蛤の在所でも探し出せしか生は手に汗して毎日の文庫を見る其の後の成行如何敢て乞ふ兩敷士返答を(始終の世話燒)▲答ふ、食度生より償金を提供してゝも和を申し入れたら兎に角傭人の調停たりとも僕は決して之れに應しない元來曲は彼れにあるのだもの但し編輯長から叱られは止むを得ず臨酬せぬかも知れぬ例ねあつても蛤だつて此の頃は一個二錢もするのだ食度生なぞの紅歯に甘合ひませんよへへへ(編輯局高等小僧)▲貴社に申し遅れたり生めエム生君と同感なり(希望生)▲世話燒女さんよ統監府には牧さんと云ふ交換手はありません牧野さんならあるが此の方ば御歸國にはなりませんよ夕飯が何うの斯うのと餘計なことは云ふべからず弓削君にしろ側寄つた名前の牧野さんとが迷惑するのは非常だ下らぬ嫉妬半分の様な投書をするものではない(世話燒男)▲仁川民團主催の宴會は手のものなる仁川倶樂部でやるので各大料理店は上つたりであるから各樓共大に憤慨して居つた、それかあらぬか過日催されたる新舊病院長送迎會には各樓共一致して一人も藝妓を出さぬと力味返つた處で民團當局者は畢生の智恵を絞り出して猫島から淫賣婦を徴發して之れに充てた相でこれが爲め目下仁川では紳士の集會に淫賣婦を侍らせたと大問題になつて居る相な(玉井生)▲紳士の集會に淫賣婦を侍らせたのは善くないことではあるが併し藝妓と猫島の淫賣婦と比較して見ればナアーに大した差はないのである否却つて梅毒を受けて居る次け賣春婦は藝妓に比して危險の程度は低い元來こんなことを大問題だなぞと騷ぎ立てる人の氣が知れない(玉非生)